

「高原の畑」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

浅間山の北麓に広大な耕地を持つ嬬恋村と長野原町。ここでは、さまざまなものがつくられて、主として首都圏に出荷されている。キャベツ、トウモロコシ、レタス、花豆、それに大量の酸素である。



嬬恋村と長野原町(北軽井沢)の境界付近のキャベツ畑。地平線の森まで続く広大なキャベツ畑だが、これでもこのあたりでは、中規模の畑である。遠くに見える山は「浅間隠山(あさまかくしやま)」高崎方面から見ると、ちょうど浅間山を隠す位置にあるので、この名がある。このすばらしい景観だけは、東京に持って帰れないのが残念である。



順調に育つキャベツ。キャベツは、作付のタイミングが難しい。豊作になりすぎると、箱代も出ないほど暴落してしまう。今の時期は、大光量のランプを点けて、未明から収穫作業する様子が見られる。



これはカボチャのように見えるが、ズッキーニの花である。ズッキーニはかつて作付が少なく、高級野菜の部類だったが、今では100軒以上の農家がつくっていて、価格も下がった。さまざまな料理に使えるが、輪切りにして、チーズをのせてオーブンで軽く焼くと、非常においしい。



これは花豆(ベニハナインゲン)の花である。花豆もこのあたりでは有名な産物の一つになった。甘納豆が非常においしいが、赤飯にしてもすばらしい。